

北押原地区

人口	男	5,406人	女	5,456人	計	10,862人	世帯数	4,066世帯
----	---	--------	---	--------	---	---------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① フレンドフェスタ事業 【世代間交流】

敬老会事業と合同で開催することにより、地域の連帯感の醸成と地域住民の融和、世代間交流を図るイベントとする。

音響設備一式

② ふれあい広場ドリーム事業 【世代間交流】

自治会館を拠点とし、幼児から高齢者まで一緒に集える事業を実施することにより、育成会活動の活性化及び子育て支援、三世代交流を図る。

備品購入及びサロン運営費

③ 奈佐原文楽稽古場改修事業 【伝統文化継承】

奈佐原文楽という伝統文化を継承するため、老朽化した稽古場を改修し、練習場所を確保することで後継者育成につなげる。また、環境を整え、公演を増やし、地域内外に伝統文化を発信する。

稽古場改修、備品購入、看板修繕等

《収支決算》

【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	933,677	707,059	60,000	7,972,640	504,620	10,177,996
その他補助金	0	0	0	0	0	0
自己資金	447,627	60,000	0	1,760	195,640	705,027
計	1,381,304	767,059	60,000	7,974,400	700,260	10,883,023

【支出（円）】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	1,381,304	0	0	0	0	1,381,304
事業②	—	767,059	60,000	0	0	827,059
事業③	—	—	—	7,974,400	700,260	8,674,660
計	1,381,304	767,059	60,000	7,974,400	700,260	10,883,023

《事業への取り組みを振り返って》

北押原地区では、地域の夢実現事業を実施するにあたり、各自治会から課題を提出してもらい、コミュニティ推進協議会で検討しました。最終的には、北押原地区全体で実施している行事について、今後の継続、発展を目指し、事業を決定しました。

① フレンドフェスタ事業

地域の連帯感の醸成と地域住民の融和、世代間交流を図るイベントとして、フレンドフェスタを敬老会事業と合同開催し、さといもの会等の高齢者交流イベントを強化するなど、地区内の交流促進を図っています。

これまでのフレンドフェスタではステージ用の音響設備を毎回リースしていましたが、新規購入したことで、フェスタの進行及びステージ発表ではこれまで以上に迫力のあるステージとなり、発表者も参加者も満足している様子でした。

音響設備については、中核的設備として様々なイベントや行事に利用しています。機材の保管管理もきちんとできており、新品同様です。主に北押原地区で立ち上げたボランティアバンドである「さといもバンドうたごえ広場」が、他地区の敬老会での演奏や、北押原地区内のさといもの会（高齢者ホットサロン）で依頼を受け、出張演奏もしています。また、年4回、北押原コミュニティセンターの多目的ホールで、演奏会を開催しています。地区内外から多い時で200人程が参加し、バンドの生演奏に合わせ、毎回約20曲を一緒に歌っています。明るく元気な歌声が響き、笑顔の絶えない時間となっており、リピーターも多く、皆さん楽しみにしているイベントの一つです。

コロナ禍では、人数制限をするなど、感染対策を講じながら実施しましたが、やむなく中止となった際は、鹿沼ケーブルテレビに撮影をお願いし、鹿沼トピックスの枠で放映していただき、テレビの前でおうち時間を楽しめる企画となりました。

本来であれば、花木センターでのさつき祭り、まちの駅新鹿沼宿での屋外イベントや、野外ステージで使用する予定でしたが、コロナの影響から残念ながら中止となってしまいました。

要請があれば、いつでもすぐに演奏できる状態なので、一日でも早くそんな日が訪れることを願っています。

音響設備を導入したことで、地域に連帯感が生まれただけでなく、いきいきとした表情の高齢者を見ることができ、世代間の交流が図れました。



北押原フレンドフェスタ&敬老会

② ふれあい広場ドリーム事業

北押原地区のモデルケースとして実施した事業です。上殿町自治会館「上殿ふれあいセンター」を拠点として、室内及びグラウンドを開放し、憩いの場を提供することにより、子育て世代を支援するとともに、高齢者との三世代が交流を図れる場として始めました。



購入した備品で楽しく活動

開設して丸三年が経過しました。高齢者のほっとサロンは、毎週水曜日に実施し、お茶を飲みながら、輪投げやかるた遊び等を行っています。月に1回は、季節を感じられるお花見や体験教室等の小旅行を楽しんでおり、毎回とても好評です。

「できることは自分でやる。」「何事にもチャレンジする。」をモットーに、認知症など的高齢者も受け入れています。

また、子育て世代との交流は、じゃがいもの収穫です。高齢者と子供たちが一緒にじゃがいもをほり、収穫したじゃがいもで作った、豚汁やじゃがバターを食べ、昔遊びを覚えてもらう活動を行っています。しかし、最近では、コロナの影響や、保護者の事情等で子供達との交流ができていないので残念です。

今後は、コロナ禍でも出来ることを考え、参加者が楽しめる事業を企画していきたいと、自治会長は話してくれました。

③ 奈佐原文楽稽古場改修事業

奈佐原地区に継承されてきた人形浄瑠璃、奈佐原文楽（国選択無形民俗文化財）は、江戸時代末期から大阪の文楽座の座員たちが奈佐原に住んで、地元の人たちに教えたとき、以来、地元の方々大切に伝統を守ってきました。しかし、25年ほど前には後継者不足に陥るなど、存続の危機となりましたが、当時30代の若い世代が後を継ぎ、伝統文化を絶やさず、更に今の若い世代に引き継ぐ努力をしています。北押原小学校では文楽のクラブが、また北押原中学校では、創作部が奈佐原文楽継承の活動をしています。現在、奈佐原文楽の保存団体「奈佐原文楽座」の座員が、北押原中学校の創作部の生徒に月2回指導しています。

今回は、活動の場である、稽古場が老朽化したため、屋根、トイレに加え、舞台や床の改修を行いました。また、演目を演じやすいよう音響や照明設備を整え、保管場所も確保しました。

使用できる人形が減り、限られた演目しかできないため、新たに人形の手足を新調し、新しい演目に挑戦することができ、士気の向上に繋がりました。

コロナ禍により、学校訪問による稽古が増えたため、移動用のラック等を揃え、天候に左右されず鑑賞できるよう、ワンタッチテントを購入しました。

敷地内にある奈佐原文楽の説明看板が識別不能のため、今後外国人の見学を見据えて、英文入りの説明看板を新たに設置しました。



奈佐原文楽説明看板

公演の場が失われていましたが、新しくなった稽古場で、令和2年11月22日に奈佐原文楽稽古場改修お披露目公演会を開催しました。来賓を迎え、北押原中学校創作部の生徒、奈佐原文楽座の座員が、傾城阿波の鳴門巡礼歌の段～十郎兵衛住家の段を披露し、今年度初めての公演に中学生も生き生きと演じていました。

【参加した方の感想】

〔生徒〕きっかけは、先輩に誘われて見学して、自分も伝統芸能を受け継ぐ活動をしたと思ったこと。やればやるほど奥深さを感じ、多くの人にその魅力を知ってほしいと願っている。

人形を操って感情をどう表現するかが難しいが、大勢の人の前で演じることができてやり切った思いがあり、少しは文楽を伝えることに役立ったかなと思う。

日本文化が好きで、小学校のクラブ活動から文楽に取り組んでいる。今後も活動を続けていきたい。

〔顧問の先生〕物語の内容の理解が進むと、子供たちの表情が変化し、それにつれ人形もその子なりの動きになってくると、活動を通しての成長を感じています。また、地域の人たちと交流する貴重な場になっており、地域との結びつきを常に考えられる人になってほしいと期待しています。

〔文楽座の方〕改修したことで、舞台が広くなり、動きやすくなった。また、舞台を低くしたため、演じる側の視界が広がり、客席から見やすくなった。と公演の手応えを感じていました。生徒に関しては、小学校、中学校と続けてやっている子が多くいるので、大人になってからもぜひ続けてほしい。舞台に立った経験は必ずその後の人生に活きると思う。

コロナ禍であるが、新しい稽古場で座員及び中学校の生徒が安心して稽古できる環境を整え、地域の憩いの場として、更には北押原地区伝統芸能の継承を支える場所として、今後も活用していきたいです。



改修された稽古場で実施されたお披露目公演会の様子

東部台地区

人口	男	8,122人	女	8,119人	計	16,241人	世帯数	6,811世帯
----	---	--------	---	--------	---	---------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

①南大通りにぎわい促進整備事業 【住民交流】

桜並木のライトアップをLED化及び延長し、市内外からの誘客を図る。

美しすぎる桜並木ライトアップ：延長 750m (LED 投光器具 115 基) ビニール提灯 (LED 電球) 150 個、紅白ロープ (50m) 10 本

②ふれあい公園多目的化整備事業 【住民交流】

公園内に大型テントを設置し、災害時やイベント実施時等に活用する。

大型テント資材 (単管パイプ、コンパネ、シート等) 常設電源設置 (1 基)

《収支決算》

【収入 (円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	11,021,000	0	0	0	11,021,000
その他補助金	—	0	0	0	0	0
自己資金	—	419,584	1,057,274	934,213	896,996	3,308,067
計	—	11,440,584	1,057,274	934,213	896,996	14,329,067

【支出 (円)】

事業 No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	9,094,150	931,576	913,525	886,700	11,82,951
事業②	—	2,346,434	125,698	20,688	10,296	2,503,116
計	—	11,440,584	1,057,274	934,213	896,996	14,329,067

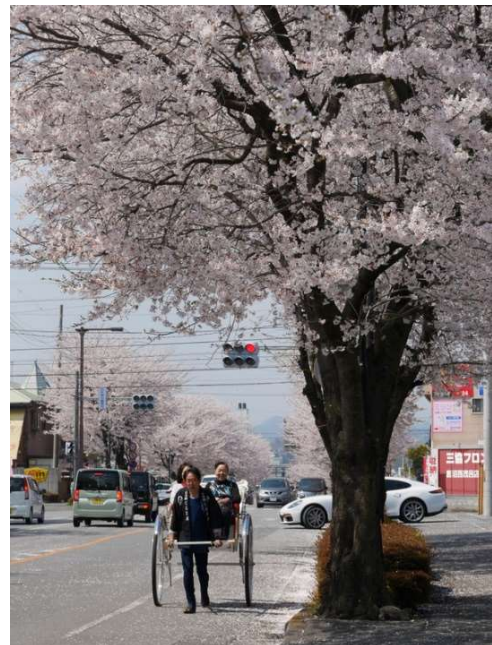
《事業への取り組みを振り返って》

1 南大通りにぎわい促進整備事業（住民交流）

南大通り（通称さつき大通り）といえば、やはり“美しすぎる桜並木”でしょう。東部台地区コミュニティ推進協議会では、この地域資源を最大限に活用し、桜の開花時期にあわせて、毎年「東部台地区ふれあいさくらまつり」を開催しています。



まつりポスター



人力車で桜を満喫

桜の開花期間中は、南大通りは地域住民や地区外からのたくさんの来訪者でにぎわいます。コミュニティ推進協議会では、夜間に桜並木のライトアップを実施しており、青空の下観る桜とはひと味違った、幻想的な夜桜を楽しむことができます。

このライトアップは、以前は地区内にある桜並木の延長約1,100メートルのところ、350メートルの限定的なライトアップでした。平成30年度に地域の夢実現事業により750メートル分のLEDライトアップ資材を追加配備し、地区内全区間のライトアップを実施することができました。また、あわせて古くなっていった提灯150個を更新し、シーズンごとに防犯街路灯に添架することで、年間とおして四季折々の情緒あふれる大通りを演出しています。





春の青空と桜並木。最高です。

2 ふれあい公園多目的化整備事業（住民交流）

栄町1丁目にある「ふれあい公園」は、東部台地区の主要な公園のひとつで、日頃から老若男女を問わず、地区住民の憩いの場として親しまれています。普段からのゲートボールやグラウンドゴルフ、子どもたちの遊び場としての利用のほか、ふれあいさくらまつりや地域のイベントの時には、メイン会場として活用されています。また、ふれあい公園は、広域避難所としても指定されています。



資材を駆使してテントの収容規模を拡張

イベント時は、雨天時でも実施できるよう園内に大型テントを設置していますが、当地区は人口が増加していることもあり、次第に既存のテントでは来場者の収容に限界が見え始めてきました。災害時を考えると、避難者の受け入れのための十分な広さが確保できないのではないかと懸念もありましたが、平成30年度の地域夢実現事業で、テント拡張のための単管パイプやコンパネなどの資材を配備し、既存のテントの収容規模を拡張することができました。

平常時は地域イベントでの活用、また災害などの非常時には避難所としての活用の際に、これまでより多くの収容数を確保できるようになりました。

3 事業のふりかえり

地域の夢実現事業の5年間をふりかえり、東部台地区コミュニティ推進協議会の方々に話を聞きました。

<南大通りにぎわい促進整備事業について>

- ・さつき大通りの桜並木は、東部台地区というより、鹿沼市のシンボルみたいなもの。地域で盛り上げていかないと。今回のライトアップ資材の配備で、以前と比べて東部台を訪れる人もかなり増えた。他の地区からも期待されているんじゃないかな。
- ・これからという時にコロナ禍になってしまってとても残念。人を集める事業はできなかったけど、自動車ですれすれで桜並木を見に来る人がたくさんいた。何か可能性を感じた。もっと桜並木の認知度を上げたい。新しいPRの方法を考えないと。コロナ禍なので派手にはできないけど、「東部台で何かやってるな。なんか元気出るなあ。」なんて思ってくれるといいな。

<ふれあい公園多目的化整備事業について>

- ・大型テントの配備で、雨天でも催し物ができるようになったけど、コロナのおかげで各種イベントが中止となり、せっかく導入した大型テントも活用する機会があまりない。設営の機会がほとんどないので、テントを建てられる人がなかなか育たない。将来を考えて、みんなが設置できるよう、人材を育成しないといけないと思う。
- ・コロナで3年も事業ができていない。3年って大きい。交流が希薄になってしまう。自治会単位でも行事できないので、地域のつながりもなくなってしまふ。行事もすぐに中止じゃなくて、何かできること考えて、みんなでアイデア出しあってやっていかないといけないと思う。

<これからについて>

- ・東部台地区は、人口は増えているけど、ライフスタイルの多様化やプライバシー意識もあって、近所どうしのつきあいや助け合いが、昔と比べてかなり少なくなっていると思う。とくに災害時は、近所どうしの助け合いがとても大切。これらの事業をとおして、地域のすばらしさや、住みやすさを再認識してもらい、近所どうしが協力しあい、助け合えるような魅力ある地域づくりを目指して、これからも事業を続けていきたいですね。

栗野地区

人口	男	1,376人	女	1,296人	計	2,672人	世帯数	1,023世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① 安全安心なまちづくり事業 【防災】

防災関連事業を実施体験することで、地域住民の防災意識の高揚を図るとともに、災害時に地域の中心として活動する自治会長や民生委員等自主防災組織の知識習得を図る。また、有事に備え、各地区公民館等に防災用備品を配備する。

防災フェスタの開催、LPガス発電機の購入配備

② 高齢者支援対策事業 【福祉】

家に閉じこもりがちな高齢者が住み慣れた場所で生き生きと暮らせるよう、各地区で高齢者サロンを開き、併せて健康づくり講座等を開催する。

高齢者サロン用備品購入、健康づくり出前講座開催（全6回）

③ つつじの里活性化事業 【観光】

つつじの名所「城山公園」から「前日光つつじの湯」までを「つつじの里」として位置づけ、年間を通して人が訪れ賑わいのある地域を目指す。

城山公園整備、道しるべ整備管理、看板設置、ヒガンバナ植栽管理

《収支決算》

【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	300,000	5,151,784	5,876,614	287,887	11,616,285
その他補助金	—	0	0	0	0	0
自己資金	—	46,464	64,962	50,000	0	161,426
計	—	346,464	5,216,746	5,926,614	287,887	11,777,711

【支出（円）】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	346,464	2,222,462	176,000	0	2,744,926
事業②	—	—	423,814	42,433	88,287	554,534
事業③	—	—	2,570,470	5,708,181	199,600	8,478,251
計	—	346,464	5,216,746	5,926,614	287,887	11,777,711

《事業への取り組みを振り返って》

粟野地区では、地域の夢実現事業実施にあたって、平成29年度地域住民全員を対象に、地域の課題や今後この地域に何が必要かなどについてのアンケートを実施し、当地区の課題は「高齢化、少子化」「野生鳥獣」「交通、防災」「医療、介護」という結果となりました。

それを受け解決策を探るべく、地域内の各種団体役員や自由参加者を交えて全9回の検討会を行い、平成30年度から4年をかけて3つの事業を実施しました。

1. 安全安心なまちづくり事業

【H30 年度】

- ・防災フェスタ開催 H31.2.17（日）
参加者 約 200 名
- ・避難所用備品購入（段ボールベッド、簡易トイレ等）

防災フェスタ→



【R1 年度】

- ・避難所宿泊訓練開催 R1.9.7（土）～
8（日） 参加者 約 50 名
- ・防災用備品購入（LP ガス発電機を各地区公民館等へ配備）

避難所宿泊訓練→



【R2 年度】

- ・防災用備品購入（LED ライトを各地区公民館等へ配備）

LP ガス発電機の点検→



安心安全なまちづくり事業では、防災フェスタや避難所体験訓練などを行いました。くしくも、令和元年度の台風災害時の避難所運営で大いに役立つ結果となり、さらに自主防災組織の重要性を再認識し、自主防災会設立の機運が高まり、口粟野地区にも令和3年度に設置することができました。

2. 高齢者支援対策事業

【R1 年度】

- ・ 第1回出前講座（栄養と運動）開催
R1.10.5（土）
参加者 40名
- ・ 高齢者サロン用備品購入（PC、カラオケセット、タンバリン等）



【R2 年度】

- ・ 第2回出前講座（認知症サポーター養成講座）開催 R2.10.24（土）
参加者 44名
- ・ 第3回出前講座（介護予防）開催
R3.2.27（土）
参加者 48名



【R3 年度】

- ・ 第4回出前講座（くすりとリスク）
開催 R3.5.22（土）
参加者 28名
- ・ 第5回出前講座（健康な体づくり）
開催 R3.7.17（土）
参加者 33名
- ・ 第6回出前講座（健康づくり）
開催 R3.10.22（金）
参加者 24名



高齢者支援対策事業では、各地区で高齢者サロンを開催する計画でしたが、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により、全6回の出前講座を開催するのみとなってしまいましたが、コロナ終息後にはまた高齢者サロン開催を目指したいと考えています。

3. つつじの里活性化事業

【R1 年度】

- ・城山公園整備事業
つつじ苗木植栽 50 本
遊歩道整備（忠霊塔脇）120m
木製ベンチ製作設置 30 脚
- ・街道景観整備事業
道しるべ看板作成 12 枚
道しるべ丁石等設置 11 箇所



整備された遊歩道



つつじ苗木植栽



木製ベンチ

【R2 年度】

- ・城山公園整備事業
遊歩道整備（防空監視哨）491m
石塔改修（二重の塔相輪）
- ・街道景観整備事業
道しるべ看板作成 2 枚
道しるべ丁石等設置 2 箇所
ヒガンバナ植栽管理 3 自治会
管理用備品購入（草刈り機）



整備された遊歩道



石塔

【R3 年度】

- ・街道景観整備事業
道しるべ丁石管理 13 箇所、2 自治会
ヒガンバナ植栽地管理 3 自治会



丁石看板



ヒガン花植栽管理

つつじの里活性化事業では、城山公園の整備や賀蘇山神社の丁石整備、ヒガンバナの植栽管理を行いました。地域住民の心の潤いと他市からの来訪者を和ませることのできるエリアづくりができましたので、今後の交流人口の増加や田舎暮らし希望者の転入に期待したいです。

粕尾地区

人口	男	639人	女	609人	計	1,248人	世帯数	490世帯
----	---	------	---	------	---	--------	-----	-------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

①地域世代間交流事業【世代間交流】

粕尾川において、こども達による川遊びやマスのつかみ取りなどの自然体験学習を実施し、参加する親子を始め地域住民の交流を図る。

粕尾川清流まつり(マスつかみ取り大会)の実施

②次世代育成支援地域間交流事業【観光】

粕尾地区のこども達や市内他地区、市外のこども達を対象とする星空観察会を実施し、次の世代を担うこども達に粕尾の魅力を再発見してもらうとともに、粕尾の自然等を地区外に向けてPRする。

天体望遠鏡の購入、星空観察会の実施

③防犯・防災対策推進事業【防犯・防災】

防犯カメラの設置による犯罪の抑止、及びドクターヘリランデブーポイントの整備や一時避難所として使用する支部公民館のバリアフリー化を行い、安全に安心して生活できる住環境を整備する。

防犯カメラの設置(2基)、ドクターヘリランデブーポイントの整備(旧上粕尾小学校校庭の芝生化)、芝管理資機材の購入、大八区公民館のバリアフリー化

④野生鳥獣対策事業【鳥獣対策】

粕尾地区全体の課題である野生鳥獣による被害軽減のため、資材等の購入などによる支援を行う。

地区内野生鳥獣対策の支援、台風被害等の補修資材の配布

《収支決算》

【収入(円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	1,916,000	624,000	3,690,000	4,558,000	994,000	11,782,000
その他補助金	0	0	3,269,000	0	0	3,269,000
自己資金	654	216	1,861	1,639	3,465	7,835
計	1,916,654	624,216	6,960,861	4,559,639	997,465	15,058,835

【支出(円)】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	220,080	291,640	0	0	511,720
事業②	448,686	269,136	32,355	45,100	0	795,277
事業③	1,467,968	37,800	6,415,570	2,659,938	890,760	11,472,036
事業④	—	97,200	221,296	1,854,601	106,705	2,279,802
計	1,916,654	624,216	6,960,861	4,559,639	997,465	15,058,835

《事業への取り組みを振り返って》

粕尾地区は、東西に細長い形状の地区であり、栗野地区に接する平地部から横根峠に近い山間部まで地区内においても環境が大きく異なっております。

環境の違いにより地区の課題も多岐にわたることから、粕尾地区全体で世代を超えて交流を図る「地域世代間交流事業」、満天の星と共に粕尾地区の良さを地区内の住民、特に子ども達に再発見してもらおうと共に、地区外からの参加者を通じ、外へ発信する「次世代育成支援地域間交流事業」、過疎化が進む中での防犯対策や緊急時はもちろん、台風などの災害に備える「防犯・防災対策推進事業」、地区内共通の課題である「野生鳥獣対策事業」の4事業に取り組んできました。

① 地域世代間交流事業

粕尾地区は範囲が広い上に少子高齢化の影響もあり、子供から高齢者まで一緒にふれあう機会が少なくなっていることから、粕尾川漁業協同組合と協力し、「粕尾川清流まつり(マスつかみ取り大会)」を開催しました。



マスのつかみ取りの様子



子供から高齢者まで多くの人でにぎわいました

② 次世代育成支援地域間交流事業

地区内の住民はいつも見慣れている満天の星ですが、鹿沼市内や都市部ではこれだけの星空はなかなか見られないものです。そうした地区の誇れる資源を再発見し、地区内の住民に星座や天体に興味をもってもらい、また、そうした資源を地区外に発信し、粕尾地区の良さを市内の他の地区や都市部の人達にアピールしようと事業を開始しました。

まず、地区内の子ども達を中心に星空観察会を開催し、星座への興味を持ってもらい、事業後半は、地区内はもちろん、市内や墨田区立あわの自然学園の利用者を対象に参加者を募集し、「星空さんぽとハイキング」と題し、横根ハイランドロッジに宿泊し、夜は星空観察、翌日は、横根高原から井戸湿原の散策など、粕尾地区の自然を満喫できる事業を企画しました。

事業後半の「星空さんぽとハイキング」は、令和元年東日本台風、その後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、残念ながら実施に至りませんでした。

しかし、今後も横根山の豊かな自然をはじめ、きれいな星空など粕尾地区の魅力を地区内住民に再発見してもらうとともに、市内外に発信していきたいと考えています。



星空観察会の様子

③ 防犯・防災対策推進事業

地区内の住民が安全に安心して暮らせるよう次の事業を実施しました。

まず、防犯対策として、防犯カメラを2基設置しました。

当地区は、県道鹿沼足尾線が基幹道路となるため、事件事故の際に今回設置した防犯カメラにより、粕尾地内を通過する車両の特定が可能となったほか、犯罪の抑止効果にも期待しています。

次に防災対策ですが、当地区は、県道鹿沼足尾線に沿った東西に細長い地形であり、令和元年東日本台風の際には、土砂崩れや河川の増水により県道鹿沼足尾線が崩落する被害が数か所発生し、被害箇所から上流部の地区が一時孤立する事態となりました。今回の被害の状況を考慮し、また夜間や高齢者で市指定の避難所まで避難が出来ない場合に備え、支部公民館を一時避難所として活用出来ないかと考え、避難所として利用できる公民館のバリアフリー化を行いました。

また、上粕尾地区は、通常でも鹿沼消防署粟野分署から車で30分以上かかること、そして災害時に孤立してしまう可能性があることなどから、ドクターヘリのランデブーポイントとして、旧上粕尾小学校の校庭を芝生化し、一刻を争うような急病の場合に散水などを行わなくてもドクターヘリが離着陸出来るように整備を行いました。今後は、芝生化と同時に導入した芝刈機等の資機材を活用し、いつでもドクターヘリが離着陸出来るよう維持管理を行い安心な地域づくりを行っています。



ランデブーポイントとして校庭を芝生化

④ 野生鳥獣対策事業

今や各地区共通の課題となっていますが、粕尾地区では山間部ということもあり毎年かなりの被害が出ています。現在、支部単位で国庫補助によるワイヤーメッシュフェンスの設置を行っていますが、なかなか解決には至っておりません。

当事業では、支部で行っている野生鳥獣対策の支援と地区全体の情報共有を目的に事業を展開しました。



フェンス設置の様子

既に設置されたフェンスも一部老朽化したものがあるほか、シカやイノシシにより破損した箇所があり、今後の維持管理に課題がありました。また、早い時期に国庫補助で導入したフェンスは高さが不足していることから、低いフェンスの嵩上げを行うためのネットなどを提供したほか、破損した箇所の補修用資材の提供を行い、既存のフェンスの有効活用を図りました。

また、令和元年東日本台風の際には、既に設置されたフェンスが土砂により流出や破損してしまいました。そうしたフェンスの復旧にも当事業が有効に活用されました。

野生鳥獣対策は、今後も継続して取り組まなければならない課題です。地区内での情報共有など連携を図りながら、被害軽減に取り組んでいきます。